

家庭で大切にしたい
子どもにできること
～中途養育の子育てと子どもの理解～

自己紹介

名前…長田 淳子（ちようだ じゅんこ）

仕事…二葉乳児院 心理職 （2005年より勤務）

★今やっていること→ 副院長、フォスティング機関統括責任者、保育園心理職
資格…臨床心理士、精神保健福祉士、保育士、公認心理師

養育里親…2016年登録。短期一時保護2名の後、現在幼児さんを養育4年目。

<これまで>

養育里親心理的処遇指導員（2001-2002）

→養育里親宅にて委託されている被虐待経験のある子どもたちの面接と相談対応

虐待対応相談員（2002-2003）

→ 虐待対応の初動調査、保護、家庭復帰のアセスメントと家庭復帰支援

二葉乳児院 里親担当SW,心理職 → 都児相里親支援機関事業（2009-）

青山学院女子短期大学「里親養育論」（2013-2020）

社会福祉法人二葉保育園について

児童養護施設
二葉学園

児童養護施設
二葉むさしが丘学園

自立援助ホーム
トリノス

二葉乳児院



- 児童相談所から措置された子どもの365日、24時間の養育
- 新生児委託推進事業（東京都）：できるだけ早期（28日未満）に養子縁組里親に委託する（2017年～モデル事業）
- 里親支援機関事業（東京都）：都内里親家庭・養親家庭および子どもに対しての相談業務、交流事業、広報普及啓発事業を企画運営。
- ショートステイ事業（新宿区、中央区、墨田区、千代田区、文京区）
- 地域子育て支援センター事業
（ひろば活動、相談活動、一時保育、ホームスタート事業等）

保育園
二葉南元町保育園

保育園
くすのき保育園

1. 子どもと里親家庭



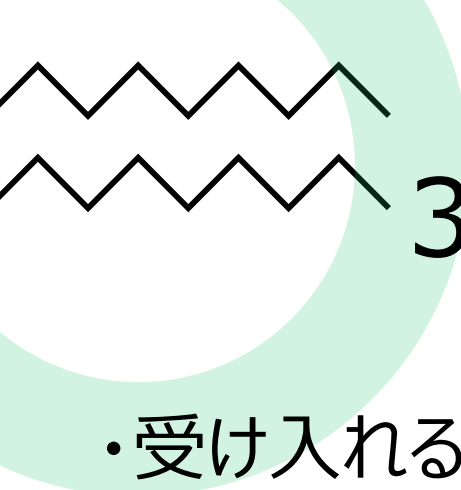
- 子どもとともに、日々を過ごし、子どもの心の揺れを受け止めながら、心身共に健やかな生活を送れるよう生活を支えていくこと
- 変わらない場所と特別な人（家族）を基盤に成長できること
- その子どもらしさと個々の成長発達を大切にしながら、その子どもなりのペースで自立にむけて支え、共に暮らしていくこと
- 子どもの何気ない日々の喜怒哀楽を、一緒に響き合ってくれる人がいること

2. 里親養育とは？



- 子どものニーズに耳を傾けることのできる存在になる
- 子どもの持ち物と記憶を大切にすること
- 子どもの記録と養育の振り返り
- 他者に助言や協力を求めることの重要性
- 子どものモデルになる
- 子どもの強みと自分の強みをたくさん見つけること
- 子どものレジリエンスを信じること
- 自分の限界を知ること
- 守秘義務と周囲との情報共有
- 不適切な養育の回避、虐待予防





3 養育にあたって大切にしたいこと

- ・受け入れる子どもへの説明と、子ども想い
不安な時期には、たくさん声をかけて、たくさん強みを言葉にする
- ・子どもの持ち物と思い出、名前の取り扱い
持ち物の保管。名前の由来など、すべてが子どもの持ち物・宝物。
- ・保育園、幼稚園、学校など周囲とのかかわりと情報共有
誰にどこまで、誰が伝えるのか。子どものニーズと、里親さんの状況と。
- ・医療や子育て支援との連携について
→ 揺れる気持ち、子どもにも里親さんにもあって当然。語りたいときに語れるように。
出会ってから自然に一緒に過ごせるまでは、丁寧なやりとりと時間が必要です。
焦らず、ゆっくり、子どもと家族のペースをつかめるように。
家庭で取り扱えないことは、関係機関と連携しながら、安全基地の役割を。



4. 社会的養護を必要とする子ども

- 複数の喪失体験
- 虐待・ネグレクトなど不適切な養育環境、混乱し不安定な家庭状況の影響
- 愛着の課題
- 心身の障害、発達の偏り など



5. 虐待を受けた子どもの課題

- 不適切なコミュニケーションスキルの取得
- トラウマ フラッシュバック
- 自己肯定感の低さ
- 感情コントロールの難しさと抑制
- 不安定な信頼感 ○不安と依存
- 喪失体験
- 心身へのダメージ
- さまざまな発達の課題

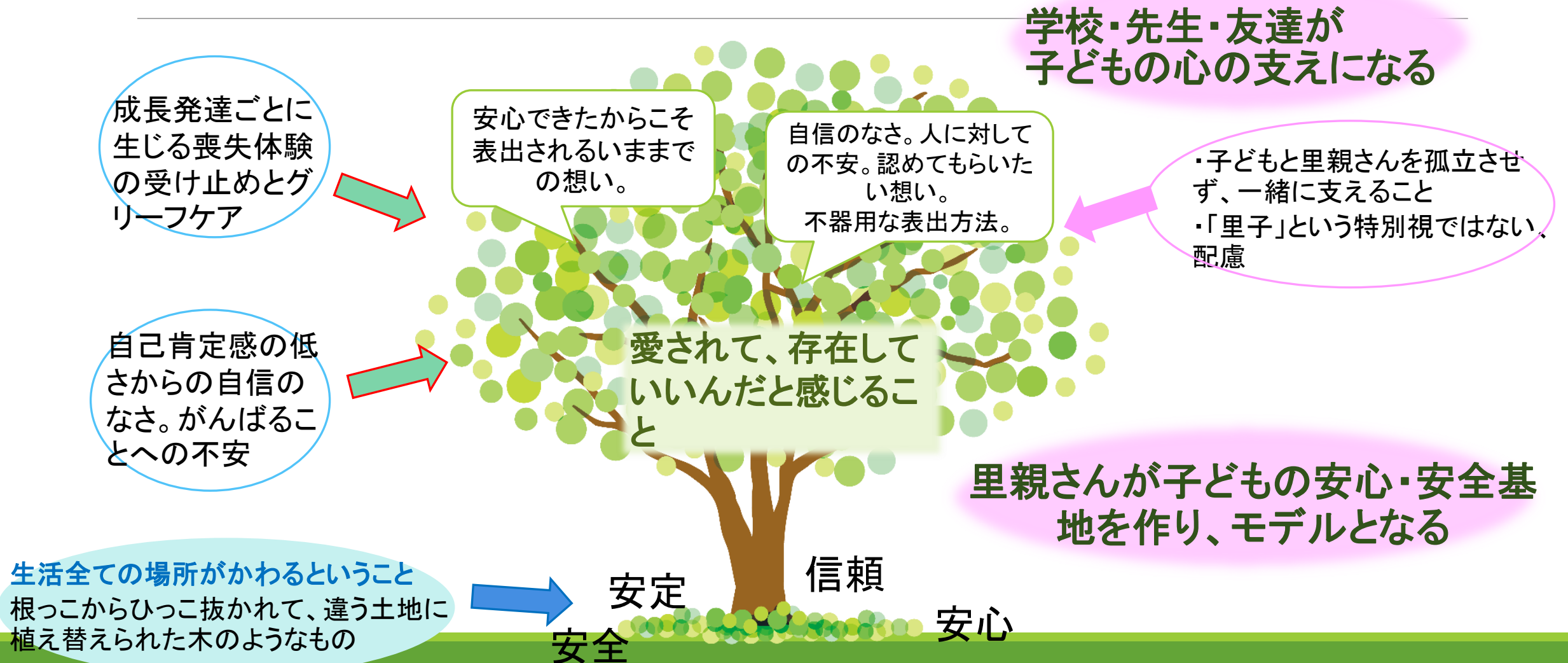


6. 里親家庭が直面すること

- ・「試し行動」というペース合わせを理解する難しさと混乱
- ・安心安全であればあるほど、表出する怒りや悲しみ、混乱
- ・成長発達にともなって繰り返される喪失感
- ・中途養育と、「家族」になること
- ・「公的養育」ということと、「家庭」
- ・「里親」になった理由と、決心と、里親の「喪失感」
- ・周囲の理解の凸凹と、「特別視」を乗り越えること
- ・子どもと実家族と、里親家庭を継続的に知っている人の少なさ



7. 子どもが里親家庭を自立するまでに必要なこと



8. 子どもの想い

- 喪失体験

- ・ これまでの環境や養育者との違い
- ・ 愛してくれる人は去っていく？

- 安全基地

- ・ いつまでここにいられるの？
- ・ いい子でいないと見捨てられる？

- 実親の存在についての感情、想像等

- ・ 産んでくれた人ってどんな人？
- ・ どうして自分を手放したの？ 忠誠葛藤

- 周囲との違いへの気づきと自分らしさの形成

★無条件で受け入れてくれる人の存在を土台に、
これまでの自分を知り、今置かれている状況を理解し、
人生の連続性を取り戻し、未来へ向かう力を得るプロセスが必要となる



9. あいまいな喪失とは (Pauline Boss 2006)

「あいまいな喪失 (ambiguous loss)」は、
その喪失自体があいまいで不確実な状況のことをいう。
Pauline Bossはこの「あいまいな喪失」を、
「はっきりしないまま残り、解決することも、決着を見ることも
不可能な喪失体験」と定義。

あいまいな喪失の状況では、
「私は誰なのか」ということがわからなくなり、
自分のアイデンティティや役割が脅かされると言われている。
それまであった関係性や愛着の喪失。自分の未来の確実性の喪失。
自分の人生のコントロール感の喪失。自分の役割の喪失。
世界が安全な場所であるという信頼感の喪失。

10. 子どもの喪失と悲しみへのグリーフサポート

- 喪失体験は一人ひとり違い、反応もそれぞれ違うということ
- 子どもだって悲しいし、自他に対して怒りの感情を持つこともある
- 子どもは真実を知りたいと思っている
- 子どもは、悲しくつらい体験をしているが、「かわいそうな子」ではない
- 子どもを「当事者」として捉え、子どものニーズに心を傾ける
- 保護者（養育している人）と子どものグリーフは響き合い、相互に作用することもある
- 子どもの声に耳を傾ける ○子どもにとっての「遊び」の役割

子どもは誠実な大人を必要とし、サポートされることから学びを得る

かかわる大人にも喪失体験とグリーフがあり、それが子どもに影響することもある



11 子どもと家族の力を信じること レジリエンスとは (Boss.2006)

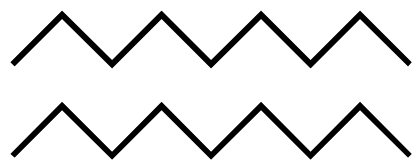
自己回復力、弾力性

逆境に置かれても耐え抜き、
それをプラスの力に変えて、新しいエネルギー
を発揮する力

絶えず再生していく成長力とプラスの感情を伴った健康的な
機能

⇒情報提供と人との適切なつながりを通してより強めることが可能





12 家族のメンタルヘルス



- 子どもを受け入れると決心したこと
- 子どもと出会うことを待つ間
- 子どもと出会ってから家族になるまで
- 子どもとの生活
- 子どもの成長

家族が増えるということは、家族全体の変化につながります。里親さんだけでなく、ご家族やペット、仕事、趣味、ストレス解消法も変化が求められることもあります。

13 里親さんのセルフケア



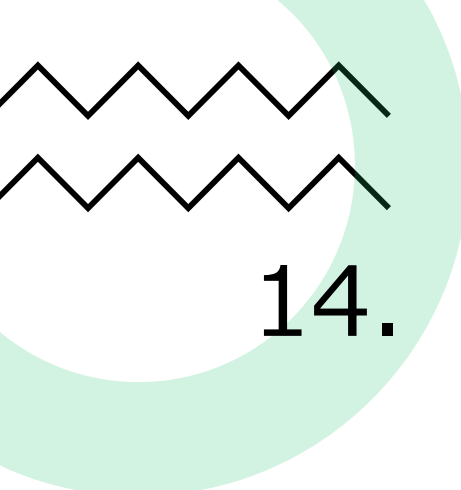
■「二次的外傷性ストレス」「二次受傷」

- 自分自身は、子どものトラウマ体験や被虐待経験、喪失体験を経験していないにも関わらず、子どもと共感的な関係を持つことで、自身も子どもと同じようなストレス反応を経験することがある。

■代理受傷

■共感的疲労

- 中途養育として子どもとかかわるということが、自身の心身に影響することがあること。
- 共感レベルが高いほど、子どもの体験に共鳴し、影響を受けやすい
⇒自身の心身にも耳を傾けながら、適宜セルフケアをおこなうことが必要。



14. 地域や社会とのつながり

- 
- 子どもの最善の利益を育むパートナーシップを結ぶこと
 - 地域の社会資源
子どもにまつわる社会資源をどれだけ知っていますか？
 - 里親家庭、養子縁組家庭とのつながり こどももおとなも
里親会 子どものイベント
 - 研修の必要性
知ることで強みを増やす いろんな声を聴く
 - 「チーム養育」と「応援団」



15 二葉・子どもと里親サポートステーションが取り組んでいること



- 真実告知のお手伝いができます

記録、担当保育士などからの小さい頃のエピソード、実親のこと

- 子どものお話を聞くことができます

乳児院での子どものボランティアの受け入れ、職員との面談

- 里親さん、養親さんや子どもたちが集まる場所となることができます

- 養親さんや子どもの相談を受けることができます

- 子どもの自立支援について一緒に考えます

- 子どもとのエンディングとこれからを一緒に整えます

Tokyo里親ナビ

お問い合わせ



家庭という居場所

子どもが、里父と続けている交換日記。その名は、「ぼうけん手帳」
—S家の宝物より

子どものライフ
ストーリーワークに
つながるもの

おわりに

■ みなさん自身の応援マップをかいたとき、どんなことが見えますか

■ 多くの応援団を持つことができますように。

それは、子どものモデルにもなります。

私たちは、

子どもと家族の応援団になりたいと思います。

民間フォスティング機関は、まだまだ手探りです。

何ができるのか、どこまでできるのか。たくさんの声を聴いて支えられて、
あきらめずチャレンジしていきたいと思っています。

